

M. T. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してからは少しでも英語に慣れておこうと思い自分の好きなジャンルで本を読んだり映画を見たりしていました。留学が近づいてきた2か月前ぐらいにはバイトもやめて、寂しくならないように家族や友達といつもよりたくさん一緒にいたりしました。あとは服を集めたり、電化製品系（パソコン・MP3 等）を自分でちゃんと使えるようにしていました。

② 語学研修（ESL, Academic Skills Study）期間

イギリスに到着してすぐに JYA プログラムの語学研修が始まりました。内容はびっくりするぐらい結構簡単で、でも先生のケアがとても行き届いていて、10 人での授業だったのですが、とてもやりやすく、仲良くなるきっかけにもなりました。Pre-sessional の語学研修になると人数がいきなり 200 人近くなりましたがそれはそれで正規の授業が始まる前のプレゼンの練習とか実用的な授業だったので助かりました。アジア人がほとんどでしたが、みんなでご飯を作ったりして楽しかったです。JYA のメンバーは教室から少し離れた所にその時住んでいたのも少し大変でした。

③ 正規科目履修期間

履修科目はあらかじめ出発前に希望を提出していました。正規の授業が始まる前に学科ごとに集まった説明会のようなものもあり、すんなり決まりました。Tutor の先生も正式に登録する前に自分の知識のレベルで追いつけるかどうかも大体ですが判断してくれるので助かりました。Warwick では最大 3 個まで授業が取れます。それぞれの授業に lecture と seminar がついていて、1 つの授業に対していくつか時間が選べるようになっているので、自分の都合で調節できました。レポートも先生に聞きに行けば細かく教えてくれると思います。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私はどこの society にも所属していませんでしたが、Japan Society と Christian Society が運営している Globe café によく行っていました。Globe café はイギリス人の子たちとたくさん話せるし、その都度のイギリスの文化的なイベントや歴史、季節に合ったテーマが設定されていて、そういうのを聞けるのもよかったです。あとは毎回終わりの時にキリスト教について教えてくれます。キリスト教だけでなく、いろんなトピックにそって自分はどうゆう思想を持っているかを交換したりして、いろいろな思想が聞けてとても楽しかったです。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

留学中はずっと寮に住んでいました。大学のキャンパス内にいくつかの寮があり、留学生のために休暇中も泊まれる寮もありますが、便利のいい所は休暇中カンファレンスなどの来客のために使われるので引越ししないといけません。私は5・6回引越ししました。みんな最低2・3回は引越しすることになると思います。寮はたくさん種類があってJYAとして留学していると大抵の希望は通してもらっている人が多かったので住みたいところに住めると思います。少し古い寮もありましたが、家具などは全て統一されていて、基本的にきれいです。調度品が壊れても報告すれば交換や修理に来てくれるのでほとんど問題なかったです。

⑥ 長期休暇の過ごし方

私は最初の夏の長期休暇を海外に行かないで、イギリスに残ってF1を観にいきました！ずっとずっと行きたかったのととても楽しかったです。あとは、少し電車に乗ればバーミンガムに行けるのでお買い物に行ったりしてました。冬休みは友達とドイツ・イタリアに行ってきました。ベニスはとってもきれいだったし、ドイツのクリスマスマーケットは賑わっていてとても楽しかったです。飛行機がヨーロッパ内だととても安い航空会社がたくさんあるので、早めに予約するとかなり安くで気軽に行けます。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

情報収集はほとんどネットでした。企業の中には説明会に出席しないとエントリーシートがもらえないところもありましたが、大きい企業はネットでのエントリーがほとんどでした。1年を通して何回も受け付けている所もあったのでそれほど心配しませんでした。ためし、ネットでエントリー出来る場所に何社かエントリーしました。JYAはみんな同じ年の子が多かったのでその子たちと話して参考にしたりしてました。日本にいる子たちと話すときとやっぱりあせってしまったりするので、あんまり日本で積極的に就職活動してる子とは就職の話はしませんでした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことは具体的に言うのは難しいですが、1年を通してたくさんの人に会えたことです。イギリスにはいろんな人種の人がいるし、みんな考え方が違うのでとっさに出る言葉にびっくりしたり感心したりします。たとえば映画をみんなで観ていても、注目する点が全然自分とは違ったりします。それを比べたりするのが楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

一時期、人と会うのがとても怖くなって部屋から出るのが嫌な時がありました。あの時は

自分がなぜそうゆう状況にいるのか全く分からなかったので不安な気持ちもあったし、自分に対してすごい自己嫌悪がありました。カウンセリングをすすめられて、冷静に自己分析をする機会を与えてもらえたので、落ち着けるようになりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

今回が初めての留学じゃなかったので、そこまでイギリス人に対して驚いたことはないですが、アジア人の情熱的な態度にびっくりしました。Pre-sessional の時にとくに思ったのですが、中国や韓国の方は自分がしたいこと、欲しいものが分かっている自己主張がしっかりしていてびっくりしました。あとは、宗教の違いです。宗教によって食べられないものも違うし、思想が違うことに感心しました。みんなそれぞれ信仰しているものに対してものすごい量の知識があって、なぜ自分がそれを信仰しているかという理由がとてもはっきりしていました。日本は無宗教っぽい習慣があるので、国によって違うんだなと特に感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

Warwick は JYA の担当に日本人と結婚している Jon という人がいて、その人がとても協力的なので、何度も助けてもらいました。キャンパス内がとてもきれいなことと、大学の周辺で生活用品がすべて揃えられるのも便利だと思いました。バスに乗れば町にも出れるし、Society も多くて友達を作る機会が多いと思います。悪い点は引越しの時の連絡がスムーズにいかないことと、何かしたい事があって頼んだりするときのメールの返答がかなり遅いことです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは部屋でネットが 24 時間繋げるので持っていくとかなり便利です。勉強のため以外にも自炊なので、レシピを調べたりするのに便利でした。でも留学のために新しいパソコンを買ったりすると使い方が分からなくなったりしたとき大変なので、新しくする場合は早め買ってしばらく使っておくのをおすすめします。あとは、シャーペンの芯もあんまり売ってないので持っていったほうがいいと思います。旅行に行く人はガイドブックが便利です。あとは、いつも飲む常備薬も持っていくといいです。

③ 語学力の向上等、留学の成果

留学中は読む量が増えたので、スピードが速くなったと思います。あとは、ネットで調べる時間もはやくなりました。じっくり読む力より、さーっと目を通して大体の意味が分かる力がついたと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学するといつもと状況がまったく変わることがあるので、自分の中でも突然とても落ち

込んだりする時があります。必ずしも人に相談するのがベストではないと思うので自分に合ったストレス発散法などを考えて、疲れている時は自分の好きなように休憩してあんまり追い詰めないように気をつけてください。ヨーロッパに行くと歴史深いので、歴史に興味が出てきたりしてとても楽しいですよ。

K. M. 英語英文学科・4 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

特に何もしていませんでした。

② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

授業で出された宿題をやっていました。余裕のある時には TOEIC の勉強もしていました。

③ 正規科目履修期間

授業についていくのに必死でした。エッセイ提出前は図書館や IT センターなどにこもってやっていました。

・ 履修科目の決定

Academic year が始まる前に事前オリエンテーションがあり、そのあと、チューターの方と話し合いながら決めました。学部によっては留学生の取れない授業もあるようですが、私の学部にはそういった授業はありませんでした。

・ 授業、レポート、定期試験

学部の授業 2 つとフランス語を取っていました。

学部の授業 2 つのうち 1 つは 2 年生の必修授業だったので、レクチャーとセミナーの両方がありました。セミナーではグループワークも多く、グループプレゼンテーションも 2 回やりました。もう 1 つの授業は夜に開講されていたものだったので、クラスメイトのほとんどが昼間仕事をされている方でした。この授業ではセミナーはなかったのですが、ペアワークが多かったです。フランス語の授業では、話すことを中心に、文法などの勉強もしていました。私はビギナークラスにいたのですが、少人数クラスで先生も丁寧に教えてくださり、イギリスでの第二外国語教育を体験できてよかったです。

定期試験は、基本、term 3 にあるので、私たち JYA は受けることができないので、代わりにレポートを書くというのが主流だったようです。(私の場合、1 つの授業はレポート、もう 1 つはレポートではなく、プレゼンテーションだったのですが。) レポートはだいたい 3000 字程度のもので多く、文献集めなどに苦労しました。前述した通り、図書館などに夜中までこもっていた時もありました。

フランス語の授業では term に 1 回の定期試験(Listening と Writing)がありました。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

Volleyball Club と Japan Society に参加していました。Volleyball はだいたい週 3 回練習、term 1 は毎週水曜日が試合の日でした。イギリスは volleyball がお家芸ではないので、メンバーはポーランド人、ドイツ人、香港人、トルコ人など、イギリス人以外がほと

んどだったので、multicultural という言葉がよく似合うクラブでした。また、6月には屋外バレーのトーナメントに参加するためだけにオランダの Eindhoven に行ったりもしました。Japan society は Warwick で数少ない日本人(笑)と会ういい機会でした。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

私の住んでいた寮は、メインキャンパスのど真ん中にある、おそらく一番立地条件がいいのではないかとと思われる寮でした。バス・トイレは共同で、部屋にシンクが付いているタイプでしたが、住めるのは1年生だけだということもあり、時にはうるさすぎて warden に怒られたりしていた、とてもにぎやかな寮でした。ただ、長期休暇中には住むことのできない寮なので、休みの度に違う寮に引っ越ししなければならなかったのが面倒くさかったです。もちろん、休暇中も住める寮もあるので、寮を決定するときにはそういったことも考える方がいいかもしれません。私ももちろん引っ越ししなければならないということを知ってはいましたが、立地条件に負けました(笑)

オンキャンパスに住んでいる学生のおそらく約半分以上が毎週月曜日にあった Top Banana と呼ばれるクラブのようなものに行っていました。フラットメイトと行ったり、society や club のメンバーと行ったり、いろいろでしたが、私もだいたい2回に1回は行っていたと思います。土曜日にも大きいイベントが毎週ありました。

⑥ 長期休暇の過ごし方

長期休暇の間にはヨーロッパを旅行していました。ヨーロッパ間では格安の飛行機チケットが売られているので、比較的旅行しやすかったです。私は6カ国だけでしたが、中には10カ国以上旅行した人もいました。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

私は教員採用試験1本にしぼっていたので、特に何もしていませんでした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

全てです。バレーを通してたくさんの人と出会えたこと、フラットメイトと一緒に Top B に行ったこと、キッチンでバカな話をしたこと、友達の誕生日パーティーに行ったこと・・・あげるとキリがないです。特に思い出に残っていることはフラットにいたもう1人の日本人の子の誕生日パーティーと自分の誕生日パーティーです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

やはり、最初の数ヶ月は英語がわからなかったり、フラットメイトと話していても聞き取れなかったりすることが多く、毎日辛かったです。ですが、時間がたつに連れて、会話にも参加できるようになりました。大事なことは、やはり、いろんな人と話すことかなと

思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

キッチンが本当に汚かったです。みんなが1年生だったからなのかもしれませんが、特に女の子の方がひどかったです。あと、イギリス人は遊ぶときはとことん遊んでいます、真面目なときは本当に真面目です。その辺りが日本人とは少し違うかなと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

本当に留学生の多い大学だったので、外国人と接することに学生もなれていたように思います。また、unionの活動がイギリスの中でもトップクラスだったようで、にぎやかでした。勉強面で見ても、トップクラスなようで、質の高い授業に参加することができました。学部の先生の対応がとてもよく、メールの返事もとても早かったです。

ですが、International Officeの対応にはあまり期待しない方がいいです。何か相談したいことがあれば早めに何度も言ったりする方がいいと思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは必須です。部屋ではもちろん、図書館や一部の教室ではhot spotがあるので無線で使えます。普段使っている薬などもあるといいと思います。特にイギリスの風邪薬は効かないので持っているといいです。洗濯ネットもあるといいです。あと、キャリーケースのようなものがあると旅行の時に役立ちます。

③ 語学力の向上等、留学の成果

まだ点数化されるものを受けてないので何ともいえませんが、先日バレー部のメンバーの1人が日本を訪れた際に言ってくれたことが、「電話での会話ができるようになったね」でした。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

違う国に行くということは必ずしも楽しいことばかりが起こるわけではありません。私たちの持っている常識が、向こうでは通用しないこともたくさんあります。ですが、終わってみると、辛いこともまたいい思い出です。ものの見方も変わるし、私は留学してよかったと思っています。

S. M. 英語英文学科・4 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

自分の興味のある英語の記事や本を読んだり、ラジオの英語ニュースを電車の中で聞いたりしていました。向こうでの生活が始まる前に日本でできる限りの準備をして行って損は絶対に無いので、日々英語に触れる時間を作ることをお勧めします。映画を字幕無しで観るのも楽しみながら Listening の訓練になるのでいいと思います。

② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

語学研修の前半は日本人のみの少人数クラスで Grammar, Listening, Reading, Writing などの基礎となる授業の他にイギリスの文化、社会などを知る授業がありました。レポートの書き方なども基礎から復習し、宿題もよく出されていました。

後半からは他の国からの留学生(大学院生の人も多い)も合流し、学部別に分けられたクラスで、プレゼンの仕方、レポートの書き方(特に参考文献の書き方など)を詳しく学びました。また、クラスによって授業内容は様々ですが、専門的な記事をたくさん読み短時間で概要をつかむ訓練などをしました。語学研修の締めくくりには自分の学部の分野で 2000words のエッセーを書き提出しました。研修前半とはクラスのレベルも上がり宿題も多く忙しい毎日で、大変と感じる事もしばしばでしたが、正規授業に入る準備としては無くてはならない期間だったと思います。

③ 正規科目履修期間

・履修科目の決定

同女で事前に履修する科目を決め単位読み替えの承諾も頂いていたのですが、現地で再びもらった履修パンフレットでは科目の名前も内容も更新されていて、また一から科目を選択し直し国際交流センターにお願いして再度学部主任の先生に読み替えをお願いしなければなりませんでした。

出発前に決めていた学部を変更したい場合は手続きに時間がかかるのでできるだけ早く Office に申し出る必要があります。

・授業、レポート、定期試験

ビジネスの学部から半期科目を 2 つ、美術史の学部から半期科目を 1 つ履修したのですが、ビジネスの方は 3 年生の科目で背景知識も全く無いまま履修したのでついていくのが大変でした。週に 3 日だけしか授業はないものの授業の復習、予習の Reading をするのにとても時間がかかり自主学習で図書館に行く日も多くありました。Essay は秋学期 1000words と 2000words、春学期 1500words 提出するのに何冊も本を読みリサーチしました。

美術史の方ももちろん毎回の **Reading** がありましたが、自分の興味のあることだったので専門用語が多くても自主的に読んでいました。少人数クラスで絵画のスライドなどを見ながらの授業で毎回違う先生のレクチャーを聞くスタイルで、一日勉強デーとしてみんなでバスに乗って **National Gallery** に行ったりもしました。Essay は試験を受けない代わりに 2500words のものを 1 つ提出しました。

これはどの授業でも言える事だと思いますが、最初の方は本当に闘いの連続で先生や生徒のなまりや話すスピードの速さに慣れるまで本当に苦労しました。毎回レコーダーでレクチャーを録音し家に帰って何度も聴き直して復習していました。セミナーでは発言にかなりの勇気が要りましたが、何も話さないとどんどん置いていかれてしまい参加できないので意見はちょっとした事でも伝えていくように心がけました。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

秋学期はビッグバンドでキーボードを弾かせてもらっていましたが、初心者で難しかったのですが、積極的に参加していくと現地の学生も話しかけてくれました。春学期はサルサとピアノサークルに入り、仲のいい友達も増えサークル以外でもよく話したりしていました。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

語学研修期間の寮は 2 ヶ月程度で引越しの連続だったのでフラットメイトと仲良くはなれてもあまり深い付き合いはできませんでしたが、10 月から正規授業が始まって住み始めた寮は友達にも恵まれ一緒にご飯を作ったり映画を観たりバースデーパーティーをしたり、家族のように仲良くなりました。設備の面では私はエンスイートの寮には 1 度も住みませんがシャワーやトイレはいくつかあり困る事はめったにありませんでした。せっかくの留学期間なのでできるだけ現地の友達と触れ合う空間が多いほうが良いと思います。インターネットの接続がたまに良くない寮もありましたが、Accommodation Office にお願いで空いている部屋があれば変えてもらえた事もありました。1 年生用の寮はかなり賑やかで平日でも夜中うるさい日も少なくありませんが、3 年生用の寮はかなり静かで落ち着いているのが大きな違いです。

⑥ 長期休暇の過ごし方

授業が終わった次の日からさっそく旅行にでかけていました。授業がある期間に旅券の手配などを勉強と平行し準備しなければならないので大変でしたが、旅行できる貴重な時間はできるだけ利用して友達とイタリア・スペイン・ドイツ・トルコ・フランス・アイルランド・スコットランドなどを周りました。長期休暇後に Essay 提出が重なっていたので、ちゃんと仕上げられるよう事前から少しずつでも取り掛かることをお勧めします。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

セミナーなどには帰国してからどんどん行くつもりだったので、2 月以降からパソコンで興

味ある会社にエントリーをしたり簡単な自己分析を試みたりしていたくらいです。留学中は最後まで勉強に専念し、友達との時間を優先したかったので日本に帰ってから切り替えてとりかかりました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

やはり色々な国の友達と仲良くなれたことです。特に約半年間一緒に住んだ寮の友達は本当に家族のような存在で一緒に過ごした時間は一生の宝物です。またスポーツや音楽などのちょっとした共通点から国境を越えてぐんと近くなれたりする瞬間が本当に嬉しく、「もっと伝えたい、解りたい」と思う気持ちから語学の習得にも熱が入りました。この留学で、たくさんモチベーションの高い人・夢に向かってる人に出会い、様々な生き方を知り、良い刺激をいっぱいもらいました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

やはり授業についていけない時、Essay がなかなか進まない時は焦りと不安でいっぱいでした。話している内容が理解できていないともちろん自分の意見を言うまでには至らず、自信をなくす事もしょっちゅうでした。悩むたびに周りの友達が励ましてくれたお陰で、頑張れたと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本と違いベジタリアン用メニューが当たり前のように用意されていたり、毎週日曜日は教会に行く人がいたり、宗教というものが普段の生活にも深く関わっている点です。また自炊をあまりせず夕飯などは冷凍ピザやレディーミールなどで簡単に済ませる子が多かったり、お酒を飲む量が半端なかったりして(特にイギリス人)驚きました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、キャンパス内の設備が大変充実していた事です。コンピューター室や自習室は何度も利用しましたし、レストラン・カフェだけではなく映画館・コンサートホール・クラブやバーなども校内にあったので友達と楽しむ場所に困りませんでした。

悪かった点としては、近年留学生が増えている為か International Office の連絡が遅かったり情報が不確かであったりした事が何度かあった事です。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの (パソコン持参の有無も含めて)

パソコンは必須だと思います。キャンパス内にもパソコン室はありましたが、日本語は読めても入力できないし、学期中などは混雑して使えない時が多かったので、レポート課題を取り組んだり日々の連絡用に使ったりするのに自分のパソコンがあると断然便利です。

勉強面では、自分の勉強する科目の日本語の参考書や電子辞書があると便利だと思います。生活面では、気候の違いや疲れで体調を壊す事もあったので薬なども少し多めに持って来ておくと安心だと思います(外国の薬は強すぎる場合があるので使いませんでした)。

③ 語学力の向上等、留学の成果

留学前の語学力と比べるとかなりのびたと思います。特に **Listening** は一年間様々な英語を聞いたせいか、だいぶ聞き取りやすくなりました。TOEIC も帰国前にロンドンで受験したのですが 1 年前より 100 点以上アップしていました。これからも努力を続けて 850 点以上を目標にがんばるつもりです。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

正規留学は語学留学と違い、楽しいだけではなく「留学生だから」という配慮なしに現地生についていかなければならず、本当に厳しい環境にも立ち向かわなければいけません。苦しい時ほど力が尽き、何事にも変えがたい経験ができる素晴らしいチャンスだと思います。私自身、留学前と後の自分を比べると本当に精神的にタフになりものごとを見る視野が広がりましたし、留学で頑張ったという自信と友達との大切な思い出・つながりは一生の財産になると思います。

語学力はやる気と努力次第でいくらでも伸びますし、生きた英語を学ぶにはやはり留学はとても良い機会だと思います。学生で貴重な時間がたくさんあるうちにぜひ留学生活で色んなものを感じ吸収してください。

S. Y. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後は特に勉強はしていませんでした。その時期はアルバイトに力を入れていました。出発前は、留学の為の買い物に行ったりしていました。パソコンとデジカメは新しく購入しました。パソコンもデジカメも、バッテリーとコンセントを結ぶコードが、海外対応のものがあり、それとイギリス用のプラグで現地で使うことができました。

② 語学研修 (ESL, Academic Skills Study) 期間

Warwick 大学で私たちは、JYA-Programme という日本人の留学生用のプログラムに参加します。同志社女子だけではなく、日本の他の大学からの留学生もいます。人数はだいたい、毎年 10 人ほどだと思います。私の年は 10 人でした。

到着後の 4 月末から 6 月末まで JYA のみで語学研修を受けます。(月曜～金曜 10 時～17 時、水・金曜はお昼まで) 私は、教室から寮までが歩いて 5 分ほどだったので、お昼休みは寮にもどって、昼食を取っていました。

授業内容は・・・

Writing・・・正しい英文法とアカデミックなエッセイの書き方を学びました。あるトピックについて、賛成か反対か自分の意見をエッセイで述べないといけない時は、エッセイを書く前に先生を含め、クラスで賛成と反対に分かれディベートをしました。それにより、自分の意見を明確に述べる力が身に付き、またクラスメイトの意見を聞くことにより、客観的にエッセイを書く力も身に付きました。毎週、宿題がでますが先生にメールで送るとチェックしてくれました。また、書いたエッセイを教室の壁に貼りクラスで読み合ったりもしました。初めは、自分のエッセイがクラスメイトによまれることが恥ずかしかったですが、クラスメイトのエッセイを読むことによって、自分が普段使っていない単語やフレーズに気づくことができ、自分が書いたエッセイを見直すいい機会になりました。

Reading・・・長い記事から、自分が欲しい情報だけを探し出して読む訓練をしました。先生がほぼ毎回の授業で記事や小説が書かれたプリントを配ります。難しい単語が多く抱えている場合は、読む前に単語のリストが配られ辞書を使わずにトピックから意味を想像して発言していきます。そこで習った単語は定期的にある単語で、ちゃんと覚えているかチェックされます。成績上位者にはチョコレートなどが配られたので、みんながんばっていました (笑)。プリントを読む時は、まず質問を読みその質問の答えが書かれている段落や文章のみを読む練習をしました。初めは、他のところも気になって読んでしまっていたが、慣れてくるとどれだけ早く答えを探せるか! とゲームのようで楽しかったです。他

にも、結末が書かれていない、小説を読みグループに分かれどのグループが一番面白い結末を思いつくかなどもしました。私は **reading** があまり好きではないのですが、この授業は楽しむことができました。他にも、イギリス文化を学ぶ授業（この授業では、イギリス文化を学ぶと同時に日本のことも聞かれるので、‘朝日データ年鑑’などの本を持っていくことをお勧めします）や発音（この授業は本当に楽しく、その上正しいイギリス英語が身に付く私の一番好きな授業です！！）がありました。どの授業も先生が楽しめるように工夫してくださっていました☆**JYA** のみの語学研修後、約2週間の休みのあと **Pse-Sessional Course** と呼ばれる約2ヶ月（7月中旬から9月下旬）の語学研修が始まります。（**Phase 1** と **Phase 2** にわかれています。）**Pre-Sessional** 中は教室から寮が歩いて30分ほどかかる距離だったので、毎日お弁当を作って持って行っていました。

<**Phase 1**>（月曜～金曜 9時5分から3時55分、水・金曜は12時55分まで）

JYA に他の国からの留学生（大学院生）が加わり、テストを受けてクラス分けされます。私の年は3クラスありました。私のクラスは **JYA** 生3名（私を含め）、中国からの留学生2名、台湾とサウジアラビアからの留学生が1名ずつでした。授業内容は、**JYA** のみで受けていた授業が少し難しくなった感じでした。放課後にクラスメイトとご飯を作りあったりしていました。台湾の友だちが料理が得意だったので、正規授業が始まってからも時々ご飯を作ってもらっていました（笑）。

<**Phase 2**>（月曜～金曜 9時から4時まで、金曜はお昼まで）

かなり多くの留学生（大学院生）と早稲田大学からの留学生約20人が加わります。クラスは15クラスくらいあったと思います。自分が正規授業で専攻する学科ごとにクラス分けされます。私は教育学専攻ということもあり、クラスメイトは全員女性（中国・キプロスからの留学生3名ずつ、台湾からの留学生5人）でした。クラスで私だけが日本人&学部生だったので初めは不安もありましたが、クラスメイトともすぐにうちとけ、とても楽しかったです。早起きは得意ではないので、正直「もっと寝たい・・・」と思ったこともありましたが、クラスメイトに会いたい！という気持ちがとても強く早起きもがんばることができました！！授業は **Listening&Speaking** と **Writing** の授業がありました。授業で扱われる教材も教育に関するものでした。（例えば、どのように幼児が第二言語を身につけるかというディクテーションなど）**Phase 2** の終わりに、プレゼンと3000字のエッセイを提出しないとイケません。そのために、**Listening&Speaking** の授業で本番までに4回、プレゼンの練習をしました。練習の時は、浴衣についてのプレゼンをしたりしましたが本番はアカデミックな内容にしないとイケなかったので、日本におけるイジメ問題と対策法についてのプレゼンをしました。**Writing** の授業では3000字のエッセイに向けて細かな

ルールを学びました。例えば、エッセイを書くとき誰かの意見を無断で使うことは、盗作で退学に値するととてもおおきな問題です。それを防ぐため、引用の仕方を何時間にも渡って学びました。難しかったですが、とても大事なことだし日本に帰ってきてからも使えるのでその時にもらった書き方のプリントは今でも大事にしています。エッセイの添削は先生に頼むと何回でもしてくれまますし、希望すれば面談もしてくれます。Phase2 では、コースの初めと終わりに、ダンスパーティがあるので他のクラスの人と知り合えるいい機会だと思います。

Phase2 終了後、正規授業が始まるまで約 1 週間の休みがあります。

③ 正規科目履修期間

・履修科目の決定

イギリス出発前に Warwick に自分はどの学科で勉強したいかという希望を出さないといけません。私はメインの学部を心理学、オプションの学部を社会学と文学で提出したのですが、バックグラウンドがないという理由で、心理学部から断られてしまいました。しかし、メインの学科が決まらないと入学許可証が発行されず、ビザの申請ができないので、国際交流センターの方と相談し、とりあえずメインの学部を文学にし、現地に着いてから変更することにしました。実際現地に行ってみると教育学があると知り、Warwick の国際交流センターに行って文学部から教育学部に変更したいと言ったのですが、留学生は取れないと断られました。でも、どうしてもあきらめられなかったので、早稲田大学からの留学生で教育学部を専攻している友だちに、センターについてきてもらい頼んだり、メールを送り続けたりして、なんとか許可してもらえました。学部の変更は、フォームになぜ変更したいかという理由を書くだけでした。

教育学の授業は 1～3 年生、どの学年の授業でも取ってよかったので自分の興味のある授業を選択しました。

・授業、レポート、定期試験

私は教育学から 2 つの半期授業、1 つの通年授業を取っていました。授業の形式は、まず初めに先生がパワーポイントを使って講義をし、(スライドのプリントはもらえました)その後、トピックに基づいた reading のプリントが配られるので読んで、グループディスカッションするというものでした。2 つの半期授業は両方とも、評価方法が 3000 字のエッセイでした。通年授業の評価方法はプレゼンでした。通年授業なのにプレゼンだけだったのには驚きました。先生が留学生だということをとても考慮してくれたのだと思います。現地の学生に聞いても、教育学の先生はみんな優しいそうです。

私は他に、Language Centre で Spanish2 (通年) を履修していました。履修前の面談で、日本でスペイン語を勉強していたことがあると言うと、経験者は Spanish1 を履修することができないと言われ結局 Spanish2 を履修しました。しかし、とても難しかったので半期で

諦めてしまいました。Spanish1 を受けたかったです・・・(笑)

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

日本のクラブのようなソサイエティというものがあります。私は Japan Society, Eastern Food Society, Latin American Society と Linguistic Improvement Practice Society (通称 LIP Soc) に所属していました。一番よく参加していたのが LIP Soc で毎週一回、Japanese Group Leader として上級者レベルの日本語を教えていました。

⑤ 現地での住まい (語学研修期間、正規科目履修期間) について (寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など)

Warwick 大学に着いてから JYA のみでの語学研修が終わるまで (6 月下旬)、Rootes という 1 回生しか住めない寮に住んでいました。寮は 1 回生しか住めないなどの条件がありますが、私たちは留学生なのでどの寮でも住めます☆Rootes は 1 回生だけで、メインキャンパスから近いこともあり、うるさいと感じる時もありました。また、ふざけて火災警報機が押されることが何度もありました。6 月下旬から Pre-Sessional が終わるまでは夏用の寮に住んでいました。1 回引っ越しがありました。正規授業が始まってからは、Westwood という寮に住んでいました。メインキャンパスまで歩いて 30 分ほどかかりましたが、教育学のキャンパスが Westwood Campus なのと、他の寮と比べて寮費が安いのに部屋が広いという理由で決めました。私が住んだ寮はどれもシャワー・トイレ共同でしたが、不便だと感じることはありませんでした。

ホームステイをしたいと思って、センターに問い合わせましたが Warwick では長期のホームステイは扱っていないようです。週末やクリスマス期間等でのホームステイは申し込むことができます。

Warwick は大学内にダンスクラブ・レストラン・ジムなどがあり設備は整っていると思います。大学から少し歩いたところに大型スーパーの TESCO やアジア人向けの Fresh Asia というスーパーがあるので食べ物に困ることはありませんでした。私は Fresh Asia で安い炊飯器を買い、ほとんど毎日お米を炊いて食べていました。時間が無いときは出前一丁 (かなりの種類が売っています!) を食べていました。

イベントは、ターム期間中は毎日のように大学内でダンスパーティーが行われています。毎週月曜日は入場料が 1 ポンドなのでかなりの学生が行っていました。私が一番好きだったのは 2 週間に 1 回あるラテンパーティーです。無料でサルサのレッスンが受けられます☆

⑥ 長期休暇の過ごし方

イギリスにいる間に、イタリア、スペイン、トルコ、スコットランド、アメリカに行きました。飛行機のチケットは、早く予約すると 3000 円くらいなので日本から旅行するのとは比べるととても安いです! 一番楽しかったのは、アメリカに協定留学で行っている友だちにニューヨークで会って観光したことです。イギリスの雰囲気とはまた違って楽しかつ

たです。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

大学院への進学を希望しているので、就職活動はしませんでした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学しないと出会えなかった、かけがえのない友だち、フラットメイトと出会えたことです。特に思い出に残っているのが、帰国する前にフラットメイトと私の10人でロンドンにミュージカルをみに行ったことです。私が帰国してしまうので、思い出作りに、バスやミュージカルの予約までしてくれ、素敵な日を過ごすことができました。帰国前に開いてくれたさよならパーティのあとに、みんなでロンドンで撮った写真をスタンドに入れてプレゼントしてくれた時は、思わず泣いてしまいました。フラットメイトを日本につれて帰りたい気持ちでいっぱいでした（笑）。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

つらかったことは、特になかったです。勉強面のサポートもしっかりしていましたし、心配だった食べ物も Fresh Asia のおかげで困ることもありませんでした。このままイギリスに住めるわ〜とっていました（笑）

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

TESCO など、レジで並んでいる時にまだお金を払ってないのに、商品を飲んだり食べたりすることが普通なこと。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

Warwick 大学は、大学内の設備が充実します。しかし、田舎なので大学外へ買い物に出掛ける時などはバスや電車に乗らなければなりません。（ロンドンへは TESCO の近くのバス停から約2時間半かかります。料金は、早く予約すると片道1ポンドです。）

また、何か問題があってオフィスやセンターに言いに行っても、何回も言わないと、とりあってくれない時があります。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは持って行くことをおすすめします。図書館や自習室にパソコンはおいていますが、自分の部屋にパソコンがあれば、とても便利です。

フラットメイトや友だちに、プレゼントできる何かがあれば仲良くなるきっかけになると思います。キティちゃんやドラえもんはイギリスでも人気があります。

③ 語学力の向上等、留学の成果

留学前よりも、speaking 力がつきました。

また、一人で飛行機に乗って旅行に行くなど、度胸もついたと思います。

大学院生の友だちが多かったのですが、30歳を過ぎていたり家族と一緒に来たりしている人もいました。そういう人たちを見ていると、自分の人生はまだまだこれからで、何かしたいと思えば年齢は関係ないんだと思えるようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学したいと思っているのなら、実行することが大事だと思います。行かないで、できるかどうか悩んでいても実際に行ってみたら何とかなるものです！！

留学によってほんとにかけがえのない人たちに出会うことができました。

私が、とても貴重な経験ができたように、1人でも多くの人たちに留学生活を通して素敵な思い出を作ってほしいです。